

# GCIエンダウメントファンド (成長型／安定型)

追加型投信／内外／資産複合

資産運用は  
王道へ回帰する



**GCI**  
Endowment Fund



■投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込みは

■設定・運用は

 **GCI Asset Management**

株式会社GCIアセット・マネジメント  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第436号  
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会

- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者（受益者）の皆さまに帰属します。
- 投資信託は、購入・保有・換金時に手数料や費用等をご負担いただくことがあります。
- 投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象になりません。
- お申込みの際は、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）で商品内容を確認の上、ご自身でご判断ください。

資産運用を長期で実現するための

## 「GCIエンダウメント ファンド」とは?

資産運用が盛んなアメリカ。

大学では資産運用の研究も盛んに行われています。

寄付金を原資に資産運用に取り組むアメリカの名門大学。

安定したパフォーマンスを長期で実現する彼らの基金は「エンダウメント」と呼ばれています。

GCIエンダウメントファンドは

彼ら「エンダウメント」の資産運用をモデルにした投資信託です。

### POINT 1

#### 米国のエンダウメントをモデルにした資産運用



#### 運用の特徴

##### 📈 長期運用

各資産への投資比率の変更は1年に1回とし、コストを低減。

##### 🔗 バランス運用

株式・債券等の資産に分散投資し、資産全体の値動きを抑制。

##### 📦 ヘッジファンドの活用

様々な市場環境に対応すべく、ヘッジファンドを活用。資産全体の値動きを抑えて、安定した運用を実現。

### POINT 2

#### シンプルな設計

ETF

ETFへの投資

コストの低いETFを用いて国内・海外の資産に分散投資。  
世界経済の成長とともに安定した利益の獲得を目指す。

and

Hedge  
Fund

ヘッジファンド  
への投資

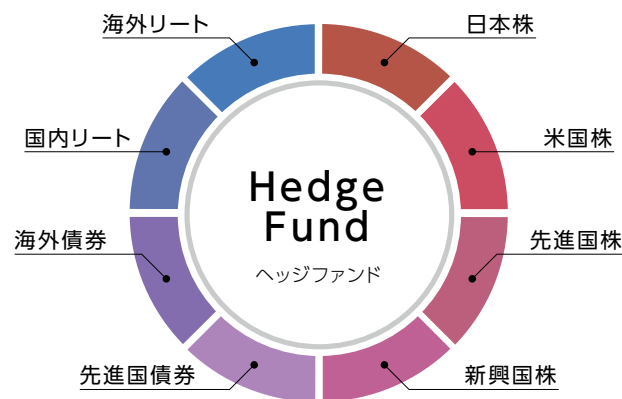
ETFではカバーできない市場の暴落に備えた投資。  
暴落時でも利益の獲得を目指す。



特設ページで  
より詳しく!

### POINT 3

### ヘッジファンドを加えたグローバル分散投資

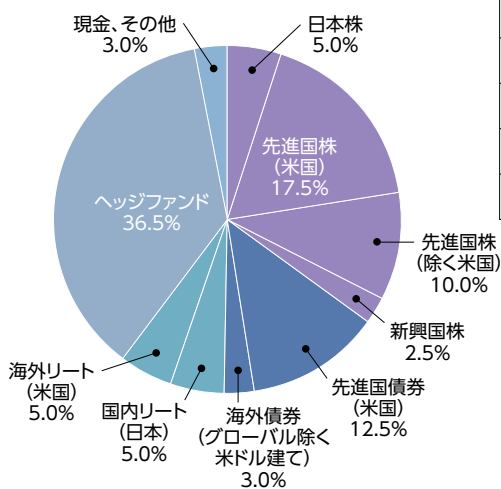


※安定型には新興国株は含まれていません。(2020年10月末時点) ※グラフはイメージであり、実際のポートフォリオとは異なります。

### POINT 4

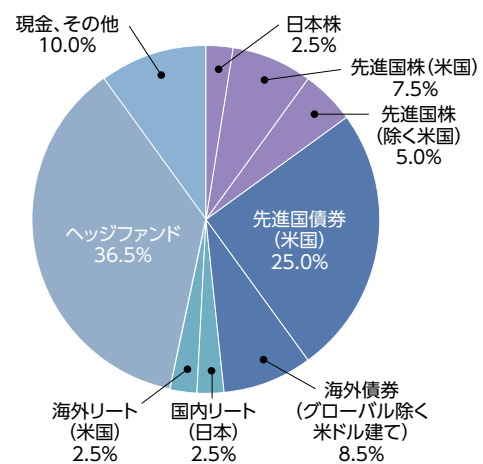
### 選べる2つのコース

#### [成長型]



	成長型	安定型
株式	35.0%	15.0%
債券	15.5%	33.5%
リート	10.0%	5.0%
オルタナティブ投資	36.5%	36.5%
現金、その他	3.0%	10.0%

#### [安定型]



※各資産クラスへの配分ターゲットは、40%以内を基本とします。

※各資産クラスへの配分ターゲット・ポートフォリオから5%の範囲内で調整します。5%以上乖離した場合にはリバランスを実行します。

※運用にあたりレバレッジは使いません。

※基本資産配分は、1年に1回程度検証を行い、必要に応じて見直しを行います。

※上記は、2020年10月末時点で作成した当面のイメージであり、実際の資産配分比率とは異なる場合があります。

※オルタナティブ投資については、投資対象ファンド(投資信託証券)により想定されるリスク水準(リターンへの振れの度合い)が異なることから、年率標準偏差10%程度を基準として当該資産クラスの基本資産配分比率を決定します。オルタナティブ投資として組み入れる投資対象ファンド(投資信託証券)の想定リスク水準が基準値(年率10%)より高い場合は、実際の投資組入比率を引き下げて調整を図ります。

# 運用の基本姿勢（運用の目標）

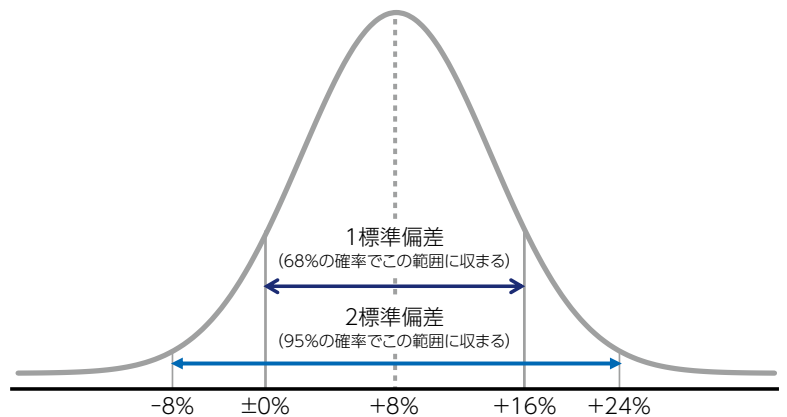
## 成長型

資産を積極的に増やしたい方へ

### 設定来数値での目標

- 目標リターン(年率)：リスクと同等
- 目標リスク(年率)：8%程度
- 目標シャープレシオ：1.0

2021年10月末の基準価額は  
約68%の確率で12,074円～14,006円の範囲、  
約95%の確率で11,108円～14,972円の範囲に収まることが期待されます。



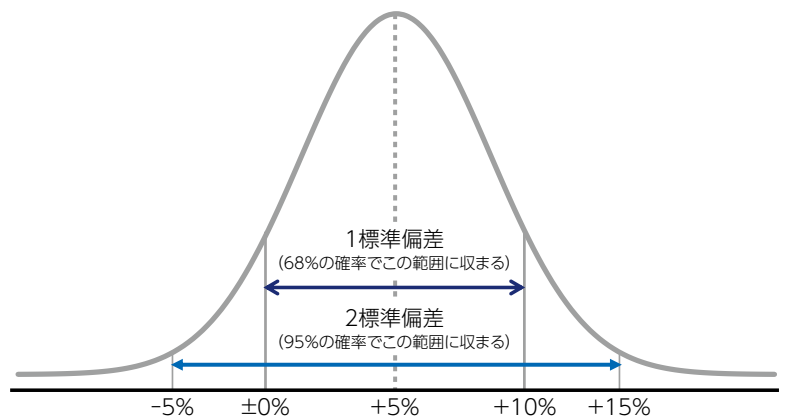
## 安定型

資産を堅実に守りたい方へ

### 設定来数値での目標

- 目標リターン(年率)：リスクと同等
- 目標リスク(年率)：5%程度
- 目標シャープレシオ：1.0

2021年10月末の基準価額は  
約68%の確率で11,334円～12,467円の範囲、  
約95%の確率で10,767円～13,034円の範囲に収まることが期待されます。



※上記は信託報酬控除後のもの。なお当該目標は、中長期的に目指す目標であって、その達成を示唆あるいは保証するものではありません。  
※上記は小数点以下を四捨五入しております。

## リスク(年率)とは

当ファンドのリスク(年率)とは「標準偏差」を用いて表記しています。標準偏差は、平均値(年率リターン)から1年間でどれだけ  
ぶれるのか幅を数値で表したものです。

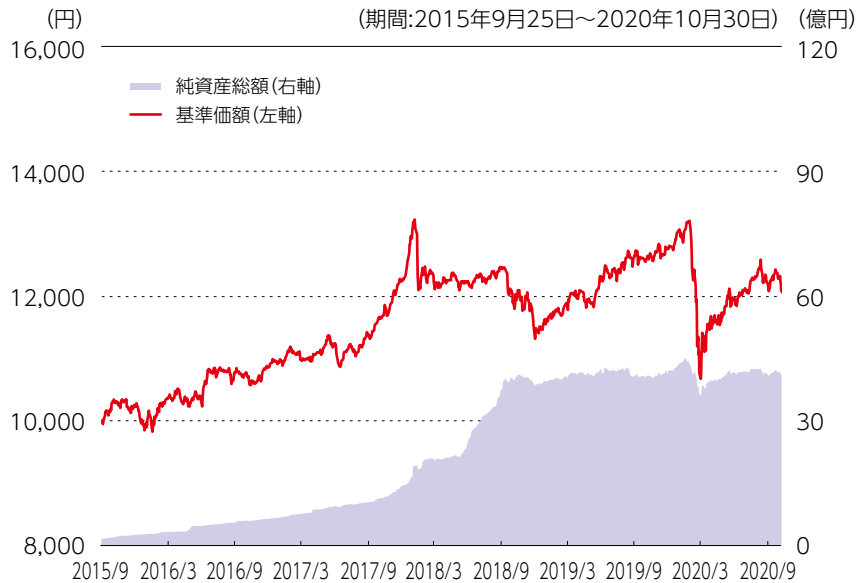
# 基準価額および純資産総額の推移 (設定来、過去運用実績)

## 成長型

2020年10月末基準価額  
12,074円

### 設定来の運用実績

リターン(年率) : 3.9%  
リスク(年率) : 7.6%  
シャープレシオ : 0.51

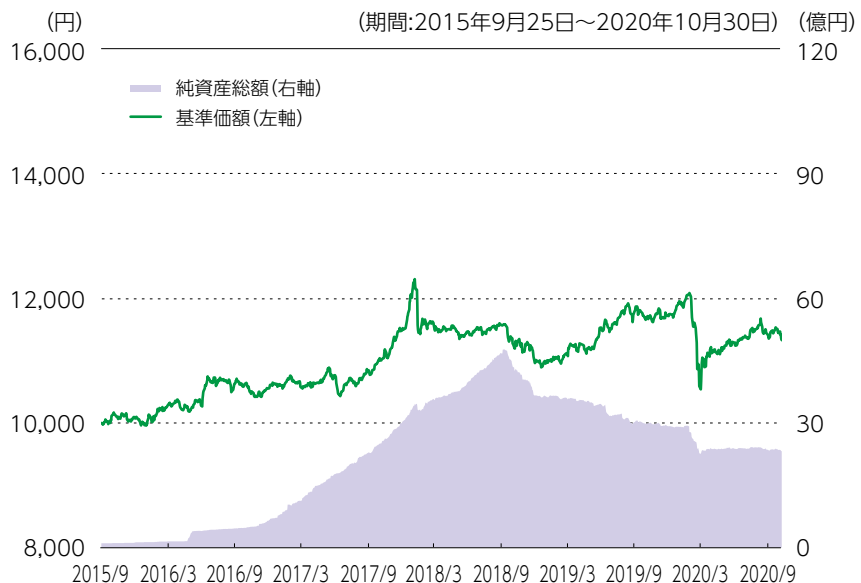


## 安定型

2020年10月末基準価額  
11,334円

### 設定来の運用実績

リターン(年率) : 2.5%  
リスク(年率) : 5.3%  
シャープレシオ : 0.49



※上記は過去のデータであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
当ファンド設定来の期間で算出。リスク(年率)は1年を250日として計算。期間:2015年9月25日~2020年10月30日。

### シャープレシオとは

シャープレシオとは、取ったリスクに対して得られたリターンの大きさを測るものです。  
シャープレシオが1.0とは『リスク:リターン=1:1』であることを意味します。この数値が高いほど、効率よく収益を獲得することが出来ていたということを意味します。

※シャープレシオ=(リターン-無リスク資産のリターン)÷リスク

# 早わかり! 組入ヘッジファンド4コマ劇場!

GCIエンダウメントファンドに組み入れられるヘッジファンド(GCIシステムティック・マクロファンド Vol.10 クラスA)の紹介です。

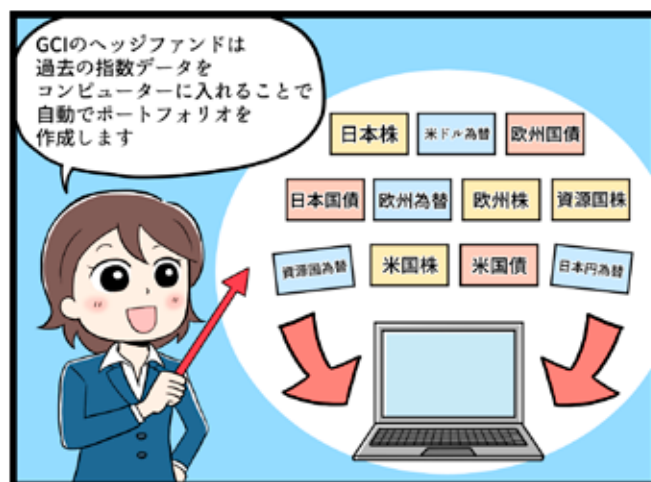
当該ヘッジファンドは相場全体が下落基調が続く際にも収益の獲得を目指すことが可能です。

## ① 趣旨・目的



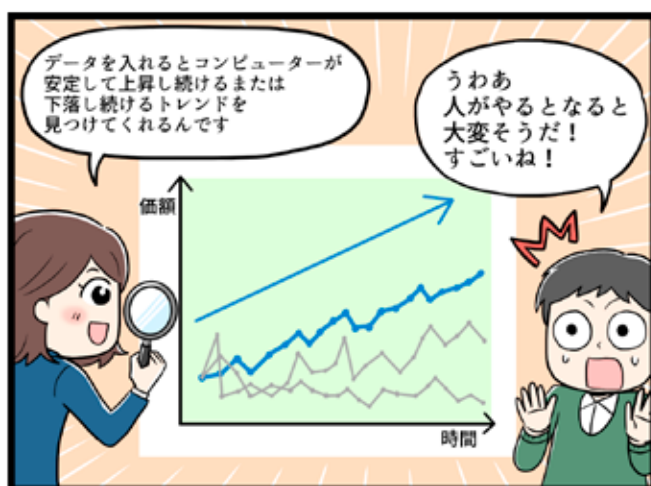
日本では珍しい自社開発・運用の自前ファンドです。

## ② データを取り込む



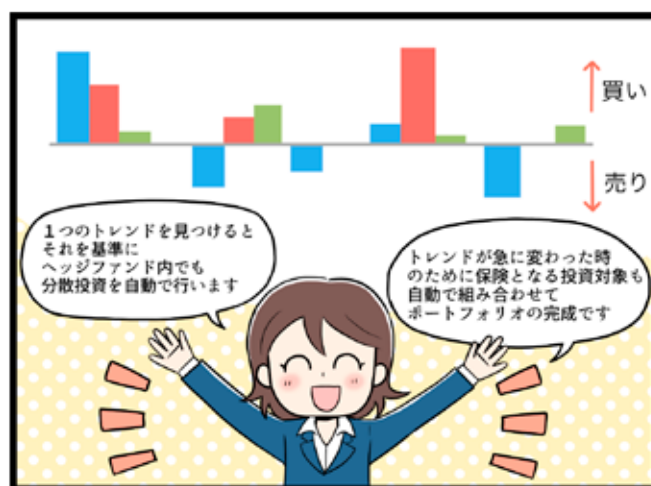
世界中の株式・債券・為替のデータを取り込みます。

## ③ トレンドを見つける



リスクに対して安定したリターンを獲得している指数を重視します。

## ④ 組み合わせせて完成



相関性に着目した分散投資を行います。世界中の指数の中から買いと売りを組み合わせて完成です。

※上記イラストはあくまでもイメージです。

## Q&A

### エンダウメントって何？

エンダウメントとはアメリカの名門大学の基金のことです。  
主に大学の卒業生等からの寄付金を原資に運用を行っています。

### ヘッジファンドを組み入れる理由は？

GCIエンダウメントファンドはグローバル分散の為のETFとヘッジファンドで構成されています。  
ヘッジファンドを組み入れるメリットは、市場下落時にも収益を獲得できる手段を持つことで、基準価額の低下を緩和できる可能性があることです。  
ETFとの相関性も低い傾向にあり、効果的な分散投資が期待できます。

### 基本資産配分は変えないの？

GCIエンダウメントファンドは、原則年1回(9月末)だけ基本資産配分を変更します。  
年1回の理由は過度な売買コストを発生させないためです。  
ヘッジファンド単体の部分は毎月月初に、コンピューターが自動で行っています。

### ヘッジファンドの成功報酬って？

ヘッジファンド部分は、過去の運用期間と比較して最高値を更新し続けた際に20%相当の成功報酬をいただいています。(ハイ・ウォーター・マーク方式)  
ヘッジファンド単体の基準価額が、過去最高値を下回って推移していれば成功報酬は一切かかりません。

### 目標リスクを決めて運用しているのはなぜ？

長く運用を続けるには、ご自身で許容可能なリスクを見極めることが大切と考えているからです。  
投資と言うとリターンに目が行きがちですが、同時に将来の値動きがどの程度のものかを把握しておくことも重要です。

ご自身が許容可能なリスクの範囲内で投資をしていれば、日々の値動きにハラハラしてしまったり、暴落時に売却して運用を止めてしまうことを避けることができます。

長期投資を実現するために、GCIエンダウメントファンドはまずリスクに着目しているのです。

#### 運用会社 株式会社GCIアセット・マネジメント

- 2000年創業の本邦独立系運用会社
- オルタナティブ投資を専門として事業展開
- 国内大学と共同での金融教育関連産学連携アプローチ
- 海外ヘッジファンドメディア「アジア・ヘッジ」や「ユーリカ・ヘッジ」等のアワード受賞実績
- 運用資産残高:2,719億円(2020年9月末現在:グループ全体)  
(注)運用する投資信託財産と投資一任契約に係る運用財産の合計資産総額です。  
(注)一部の戦略は想定元本ベースで計算

金融商品取引業者 関東財務局(金商)第436号  
一般社団法人日本投資顧問業協会加入  
一般社団法人投資信託協会加入



# ファンドの目的・特色

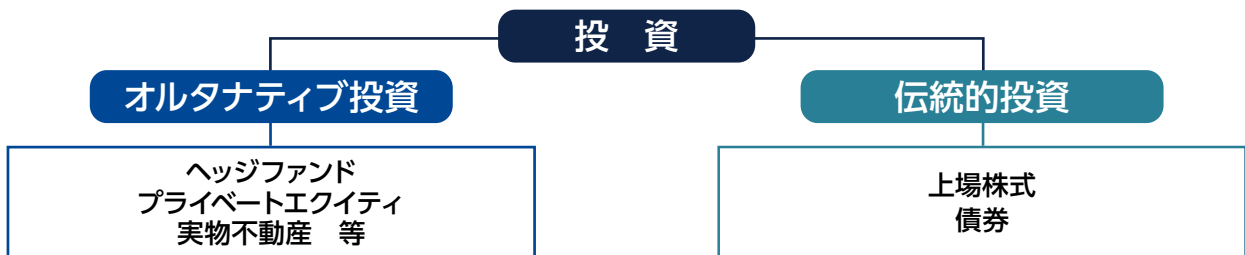
## ファンドの目的

この投資信託(以下、当ファンド)は、ファンド・オブ・ファンズ方式により、投資資産のうち伝統的資産に加えてオルタナティブ投資を活用し、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

### オルタナティブ投資とは

オルタナティブは英語で“代替”という意味です。

これまで投資といえば、株式や債券など有価証券を購入し、それを保有することを通じて利子・配当収入などのインカム・ゲインを得るか、購入価格より高く売却することによりキャピタル・ゲインを得るというものでした。このような伝統的投資に対して、それ以外の新しい投資を総称してオルタナティブ投資と呼ばれています。具体的には、ヘッジファンドやプライベートエクイティ、実物不動産などが挙げられます。



## ファンドの特色

### 1 「米国エンダウメント」の投資手法を模範とした長期運用を行います。

米国名門大学の基金(エンダウメント)が実践してきた投資手法・スタイルを模範とし、日本の個人投資家の皆さまが長期にわたり安心して投資していただけるように考えて作られた投資信託です。

米国エンダウメントの投資手法には次の特徴があります。

- 本格的な長期投資
- 徹底した分散投資
- オルタナティブ投資の活用
- 個別戦略の運用は外部委託

当ファンドは、上記の特徴を模範としています。

#### 〈米国エンダウメントと当ファンドの投資手法に関する主な相違点〉

米国エンダウメント	当ファンド
ポートフォリオにおける オルタナティブ投資部分は60～70%	ポートフォリオにおける オルタナティブ投資部分は36.5%*
“非流動的”なオルタナティブ投資にも多く配分	“非流動的”なオルタナティブ投資は行わない

※2020年10月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

### 2 オルタナティブ投資としてヘッジファンドを活用します。

ヘッジファンドをポートフォリオに組み入れることで、市場の下落局面に強いプロファイルを目指します。また、これにより長期的なリスク・リターン安定化を図ります。



### 3 長期分散投資で世界の経済成長に沿った収益の獲得を目指します。

投資対象ファンド(投資信託証券)を通じて先進国、新興国を含む世界各国の株式、債券、リートなどに分散投資することで、グローバルな経済成長に沿った収益の獲得を目指します。また、グローバル分散投資によりポートフォリオのリスク低減を図ります。

#### 当ファンドの投資対象

資産クラス一覧				
日本株	先進国株(除く米国)	先進国債券(米国)	国内リート(日本)	ヘッジファンド
先進国株(米国)	新興国株	海外債券(グローバル除く米ドル建て)	海外リート(米国)	現金、その他

\*投資対象およびその比率については、必要に応じて見直します。  
また、ETFなど市場流動性の高い商品に投資することにより、ファンドの流動性を確保します。

外貨建資産については、投資判断により対円での為替ヘッジを行うことがあります。

### 4 「成長型」「安定型」2つのコース。

お客さまのニーズによって、「成長型」と「安定型」の2つのタイプからお選びいただけます。

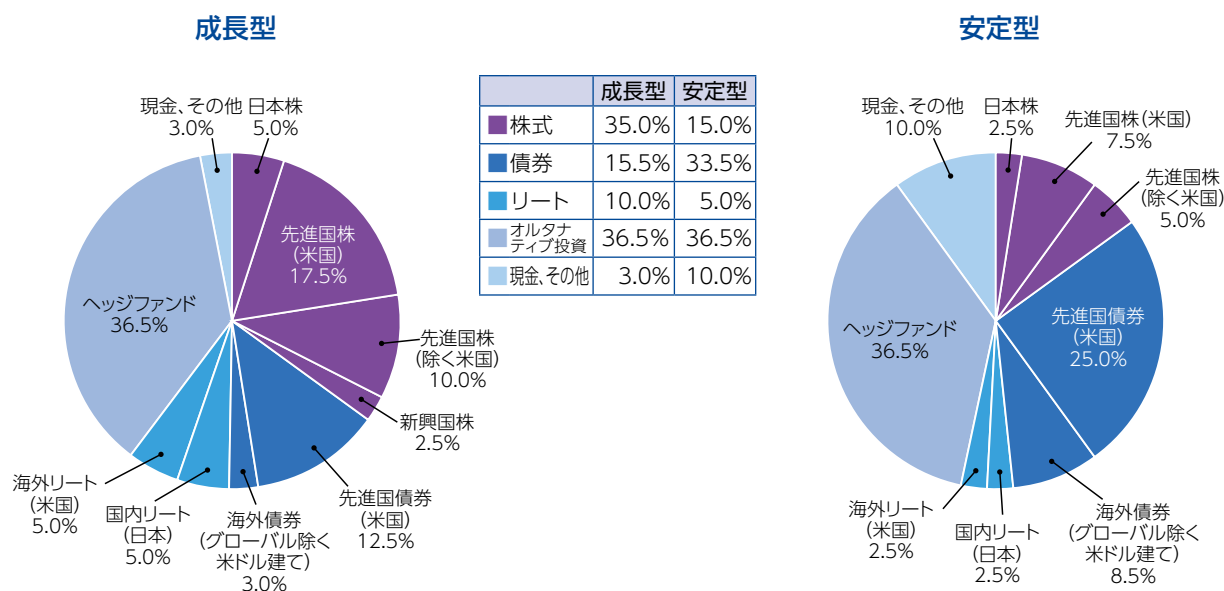
#### 「成長型」

投資資産のうちリスク資産のウェイトを増やしつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ投資を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

#### 「安定型」

投資資産のうちリスク資産のウェイトを抑制しつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ投資を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して安定的な運用を行います。

#### 各ファンドの基本資産配分

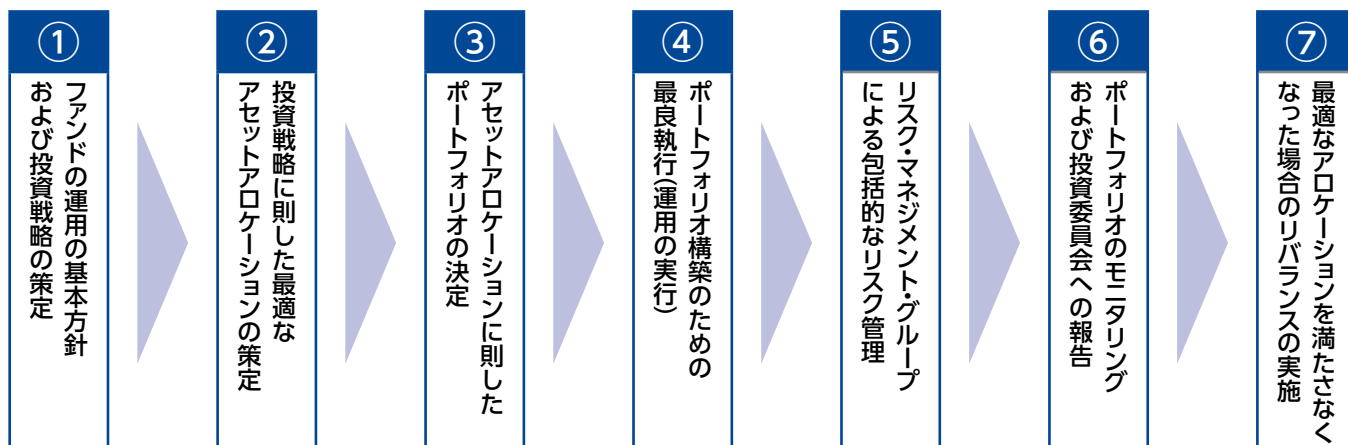


※各資産クラスへの配分ターゲットは、40%以内を基本とします。  
 ※各資産クラスへの配分はターゲット・ポートフォリオから5%の範囲内で調整します。5%以上乖離した場合にはリバランスを実行します。  
 ※運用にあたりレバレッジは用いません。  
 ※基本資産配分は、1年に1回程度検証を行い、必要に応じて見直しを行います。  
 ※上記は、2020年10月末時点で作成した当面のイメージであり、実際の資産配分比率とは異なる場合があります。  
 ※オルタナティブ投資については、投資対象ファンド(投資信託証券)により想定されるリスク水準(リターン)の振れの度合いが異なることから、年率標準偏差10%程度を基準として当該資産クラスの基本資産配分比率を決定します。オルタナティブ投資として組み入れる投資対象ファンド(投資信託証券)の想定リスク水準が基準値(年率10%)より高い場合は、実際の投資組入比率を引き下げて調整を図ります。

## <ファンドの運用>

当ファンドの運用は、運用政策会議で定められた運用の基本方針に則り、投資委員会が運用の意思決定を行います。投資委員会は、運用責任者、チーフ・インベストメント・オフィサーなどが出席し、原則として月次で開催される個別運用案件に関する協議を行う機関として位置付けられています。投資委員会の決定に基づき、インベストメント・ソリューション・グループが有価証券等の売買の執行を行います。

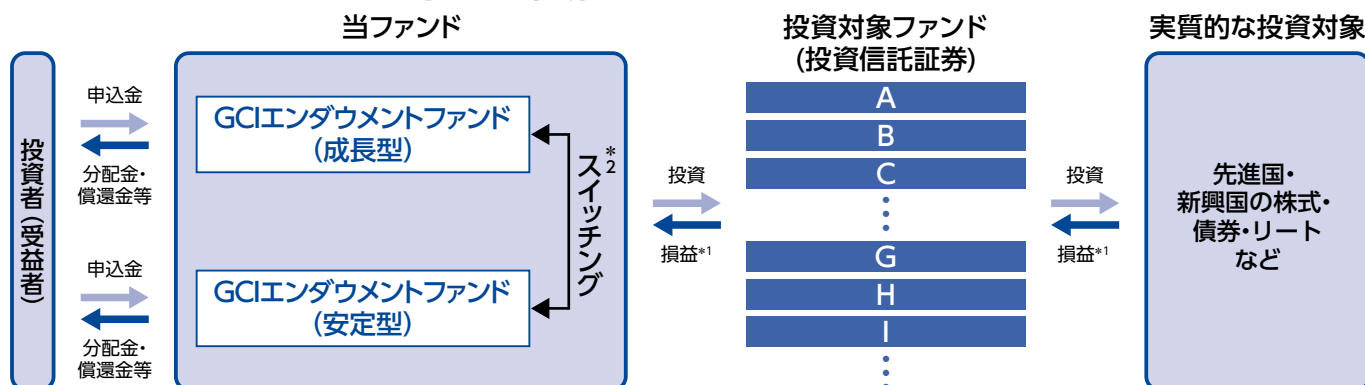
## <運用プロセス>



※上記プロセスは2020年10月末現在のものであり、今後、変更する場合があります。

## ファンドの仕組み

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



\*1 損益はすべて投資者である受益者に帰属します。

\*2 販売会社によっては各ファンド間でスイッチングが可能です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## ファンド・オブ・ファンズ方式とは

投資者の皆さまからお預かりした資金を直接株式や債券といった資産に投資するのではなく、株式や債券などに投資している複数の投資信託に投資して運用を行う仕組みです。

## <主な投資制限>

- ① 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ② 株式への直接投資は行いません。
- ③ 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
- ④ デリバティブの直接利用は行いません。

## <分配方針>

年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)などの全額とします。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

資金動向や市況動向などによっては、上記のような運用ができない場合があります。

# 投資リスク

## 基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
リートの価格変動リスク	リートの価格は、不動産市況(不動産稼働率、賃貸料、不動産価格など)、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制などの変更、災害などの要因により変動します。また、リートおよびリートの運用会社の業績、財務状況の変化などにより価格が変動し、基準価額の変動要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資対象ファンド(投資信託証券)において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	有価証券等の発行体などが財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金などをあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、またはそれが予想される場合には、有価証券等の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化などにより市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、方針に沿った運用が困難となり、基準価額が下落することがあります。特に、新興国への投資には、先進国と比較して政治・経済および社会情勢の変化が組入銘柄の価格に及ぼす影響が相対的に高い可能性があります。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。
ヘッジファンドの運用手法に係るリスク	投資対象ファンド(投資信託証券)においては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引などの買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、当ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンド(投資信託証券)の純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンド(投資信託証券)の基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。また、ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

# 投資リスク

## その他の留意点

### ●収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は、前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

### ●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

## リスクの管理体制

運用リスクの管理については、運用部門から独立したリスク・マネジメント・グループが日々運用状況の分析およびモニタリングを行い、原則として週次で開催される運用リスク管理会議にて運用リスクの適切性を検証・評価し、リスク管理会議および運用政策会議に報告されます。また、問題が生じた場合には速やかに臨時で招集される運用政策会議に報告が行われ、その対応策が検討・決定される体制となっています。

事務リスク等の管理については、原則として月次で開催される事務リスク等管理会議において、運用に係る事務運営の適切性が検証され、リスク管理会議に報告される体制となっています。

そして、リスク管理会議において、各リスクの発生の有無・状況の把握、対応方針の検討・決定および進捗状況の管理などを行い、重要な事項はさらに運用政策会議に報告される体制となっています。

## 手続・手数料等

### お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。 (ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入の申込期間	2020年12月25日から2021年6月24日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
購入・換金の申込受付不可日	ニューヨークの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休業日 ※詳しい申込受付不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情(投資対象国・地域における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)による市場の閉鎖または流動性の極端な低下および資金の受渡しに関する障害など)が発生したときなどには、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	原則として無期限(2015年9月25日設定)
繰上償還	次のいずれかの場合などには、繰上償還することがあります。 ・ファンドの受益権の口数が10億口を下回ることとなったとき ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎年9月25日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託金の限度額	各ファンドについて10兆円
公 告	原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページに掲載します。 URL : <a href="https://www.gci.jp">https://www.gci.jp</a>
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
スイッチング	販売会社によっては、各ファンド間でスイッチング(乗換え)が可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に換金されるファンドに対して税金などをご負担いただきます。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課 税 関 係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA)および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。 配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

## ファンドの費用・税金

### ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用																																	
購入時手数料	購入価額に <b>1.1%(税抜 1.0%)を上限</b> として、販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。	購入時手数料は、商品説明、募集・販売の取扱事務などの対価として、販売会社にお支払いいただくものです。																															
信託財産留保額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に <b>0.1%</b> の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。																																
投資者が信託財産で間接的に負担する費用																																	
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し <b>年率0.715%(税抜 0.65%)以内</b> 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。信託報酬率およびその配分は、ファンドの純資産総額の残高に応じて変更します。 <信託報酬率およびその配分>																																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">純資産総額</th> <th rowspan="2">信託報酬率 &lt;合計&gt;</th> <th colspan="3">支払先の配分</th> </tr> <tr> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500億円以下部分</td> <td>年率0.715% (税抜 0.65%)</td> <td>年率0.33% (税抜 0.3%)</td> <td>年率0.33% (税抜 0.3%)</td> <td>年率0.055% (税抜 0.05%)</td> </tr> <tr> <td>500億円超 1,000億円以下部分</td> <td>年率0.638% (税抜 0.58%)</td> <td>年率0.297% (税抜 0.27%)</td> <td>年率0.297% (税抜 0.27%)</td> <td>年率0.044% (税抜 0.04%)</td> </tr> <tr> <td>1,000億円超部分</td> <td>年率0.561% (税抜 0.51%)</td> <td>年率0.264% (税抜 0.24%)</td> <td>年率0.264% (税抜 0.24%)</td> <td>年率0.033% (税抜 0.03%)</td> </tr> <tr> <td>役務の内容</td> <td>運用管理費用(信託報酬) =運用期間中の基準価額 ×信託報酬率</td> <td>委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成などの対価</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなどの対価</td> <td>信託財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価</td> </tr> </tbody> </table>			純資産総額	信託報酬率 <合計>	支払先の配分			委託会社	販売会社	受託会社	500億円以下部分	年率0.715% (税抜 0.65%)	年率0.33% (税抜 0.3%)	年率0.33% (税抜 0.3%)	年率0.055% (税抜 0.05%)	500億円超 1,000億円以下部分	年率0.638% (税抜 0.58%)	年率0.297% (税抜 0.27%)	年率0.297% (税抜 0.27%)	年率0.044% (税抜 0.04%)	1,000億円超部分	年率0.561% (税抜 0.51%)	年率0.264% (税抜 0.24%)	年率0.264% (税抜 0.24%)	年率0.033% (税抜 0.03%)	役務の内容	運用管理費用(信託報酬) =運用期間中の基準価額 ×信託報酬率	委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成などの対価	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなどの対価	信託財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価
	純資産総額	信託報酬率 <合計>	支払先の配分																														
			委託会社	販売会社	受託会社																												
	500億円以下部分	年率0.715% (税抜 0.65%)	年率0.33% (税抜 0.3%)	年率0.33% (税抜 0.3%)	年率0.055% (税抜 0.05%)																												
500億円超 1,000億円以下部分	年率0.638% (税抜 0.58%)	年率0.297% (税抜 0.27%)	年率0.297% (税抜 0.27%)	年率0.044% (税抜 0.04%)																													
1,000億円超部分	年率0.561% (税抜 0.51%)	年率0.264% (税抜 0.24%)	年率0.264% (税抜 0.24%)	年率0.033% (税抜 0.03%)																													
役務の内容	運用管理費用(信託報酬) =運用期間中の基準価額 ×信託報酬率	委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成などの対価	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなどの対価	信託財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価																													
		<p>&lt;投資対象ファンド(投資信託証券)における運用報酬等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成長型：<b>年率0.477%程度(税抜 0.476%程度)+成功報酬</b></li> <li>安定型：<b>年率0.468%程度(税抜 0.467%程度)+成功報酬</b></li> </ul> <p>※当ファンドにおいては成功報酬はかかりませんが、指定投資信託証券(GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスA)においては20%の成功報酬がかかる場合があります。</p> <p>* 指定投資信託証券(GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスA)の基準価額(管理報酬等控除後、成功報酬控除前)がハイ・ウォーター・マークを超えた場合には、その超過分に対して20%の成功報酬がかかります。当該報酬は計算期間(6月1日から翌年5月31日まで)を通じて日々計上(ハイ・ウォーター・マークを下回った場合は戻し入れ)され、原則、計算期間終了後に年1回支払われます。 ハイ・ウォーター・マークとは、前計算期間までで最後に成功報酬が控除された際の基準価額(成功報酬控除後)をいい、計算期間終了時に更新されます。</p>																															
		<p>&lt;実質的な負担&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成長型：<b>年率1.192%程度(税抜 1.126%程度)+成功報酬</b></li> <li>安定型：<b>年率1.183%程度(税抜 1.117%程度)+成功報酬</b></li> </ul> <p>※当ファンドの運用管理費用(信託報酬)に投資対象ファンド(投資信託証券)の運用報酬等を合わせた、投資者が実質的に負担する額の合計です。</p> <p>※投資対象ファンド(投資信託証券)における運用報酬等ならびに実質的な負担の値はあくまで目安であり、指定投資信託証券の実際の組入れ状況等により変動する場合があります。</p> <p>※指定投資信託証券(GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスA)において20%の成功報酬がかかる場合、上記実質的な負担も相応分上がります。</p>																															

<p>その他の費用 ・ 手数料</p>	<p><b>&lt;売買委託手数料など&gt;</b> 有価証券売買時の売買委託手数料、立替金の利息、ファンドに関する租税などが信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。</p> <p><b>&lt;信託事務の諸費用&gt;</b> 監査費用、印刷費用、計理業務およびこれに付随する業務に係る費用などの諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%を上限として日々計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。</p>
-------------------------	---

※投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 税 金

税金は下記の表に記載の時期に適用されます。

下記の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法などにより異なる場合があります。

時 期	項 目	税 金
分 配 時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記は2020年10月末現在のものです。税法が改正された場合などには、税率などが変更される場合があります。

※少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方となります。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。



## 「モーニングスターアワード ファンドオブザイヤー」受賞



会社HP

基準価額、最新の目論見書は  
webサイトからご確認いただけます。  
<https://www.gci.jp/jp/funds/>  
(パソコン・スマートフォン共通)



ファンド  
特設ページ

基準価額、過去のレポート、  
詳しい商品の内容などをご確認いただけます。  
<https://www.endowment.jp>  
(パソコン・スマートフォン共通)

※Morningstar Award “Fund of the Year 2016”、Morningstar Award “Fund of the Year 2017”、Morningstar Award “Fund of the Year 2018”、Morningstar Award “Fund of the Year 2019”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc.に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

<Morningstar Award “Fund of the Year 2016”>当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2016年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(安定成長)型 部門は、2016年12月末において当該部門に属するファンド253本の中から選考されました。  
<Morningstar Award “Fund of the Year 2017”>当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2017年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(成長)型 部門は、2017年12月末において当該部門に属するファンド808本の中から選考されました。  
<Morningstar Award “Fund of the Year 2018”> 当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2018年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス型 部門は、2018年12月末において当該部門に属するファンド1,030本の中から選考されました。  
<Morningstar Award “Fund of the Year 2019”>当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2019年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(成長)型 部門は、2019年12月末において当該部門に属するファンド814本の中から選考されました。

### <ご留意事項>

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント(以下「当社」といいます)が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。